

# 都城J.C

[宮崎県]

## まちの「シンクタンク」で あり続けるために

**都** 城市は、宮崎県の南西部に位置し、宮崎・鹿児島両空港

や志布志港を所要1時間圏内に有する、南九州の交流拠点都市であります。「平成の大合併」で人口は約17万人となり、雄大な霧島連山から流れる大淀川の恩恵を受けながら、牛・豚・鳥の生産高においては国内有数の「畜産のまち」となりました。他にも、木刀や和弓などの木工業や茶業も盛んです。また、平安時代に日本最大の「荘園」を開発した島津家の発祥の地として知られ、最近では東国原英夫知事の出身地として、「都城」をよく耳にするかと思えます。

(社)都城青年会議所は全国で265番目のLOMとして認証され、今年で創立45周年を迎えました。LOMの特徴としては、都城市内はもとより、同じ生活圏にある、お隣の

鹿児島県曾於市からの現役・シニアのメンバーが約1割を占めており、県境のなくなる日にタイムカプセルを開封する事業など、県境を越えた様々な運動を行っております。その他、例会においても月に2度例会を行う慣例から、講師例会では我々シニアメンバーを中心に人選されることも多々あり、さらに都城J.Cでは



J.C野球部会OB交流試合にて

理事長はじめ、副理事長・理事を現役会員の投票により選出するため、選挙管理委員会の運営もシニアクラブで担っております。このように、金銭的以外に「人的にも」現役メンバーのお手伝いをしております。

昨年は3度目となる九州地区大会を開催。九州各地より過去最大規模となる約3200名もの登録を頂き、九州J.Cシニア総会でも多くの先輩方にご臨席賜りました。これらひとえに、現役メンバーが大会前にキャラバン隊を組み、九州地区76LOM全てを行脚した賜物だと思えます。

都城J.Cシニアクラブの会員数は250名を超え、現役時代に培ったエネルギーを経済界・政界はじめ、各地でいかんなく発揮しております。J.C卒業後は、そのままシニア

クラブに入会する方が殆どで、これは現役メンバーに対する「お目付け」という役割以上に、シニアクラブの重要性を卒業生が十分に理解しているからだと感じます。但し現状として常に100名以上いた現役メンバーが現在は94名となり、シニアクラブ会員が増加する一方、現役会員は減少傾向にあります。このことは、どのLOMでも起きている現象

ではありますが、お互いがバランスよく地域を先導する両輪となり、今後も「わがまちの真のオピニオンリーダー」を輩出し続ける環境を都城J.Cシニアクラブは創出していかなくてはならないと考えております。

日本J.Cシニア・クラブ

宮崎ブロック担当幹事 河東 光浩



継承されるJC太鼓



創立45周年 歴代理事長の鏡開き